



# 生活クラブ風車 夢風 News

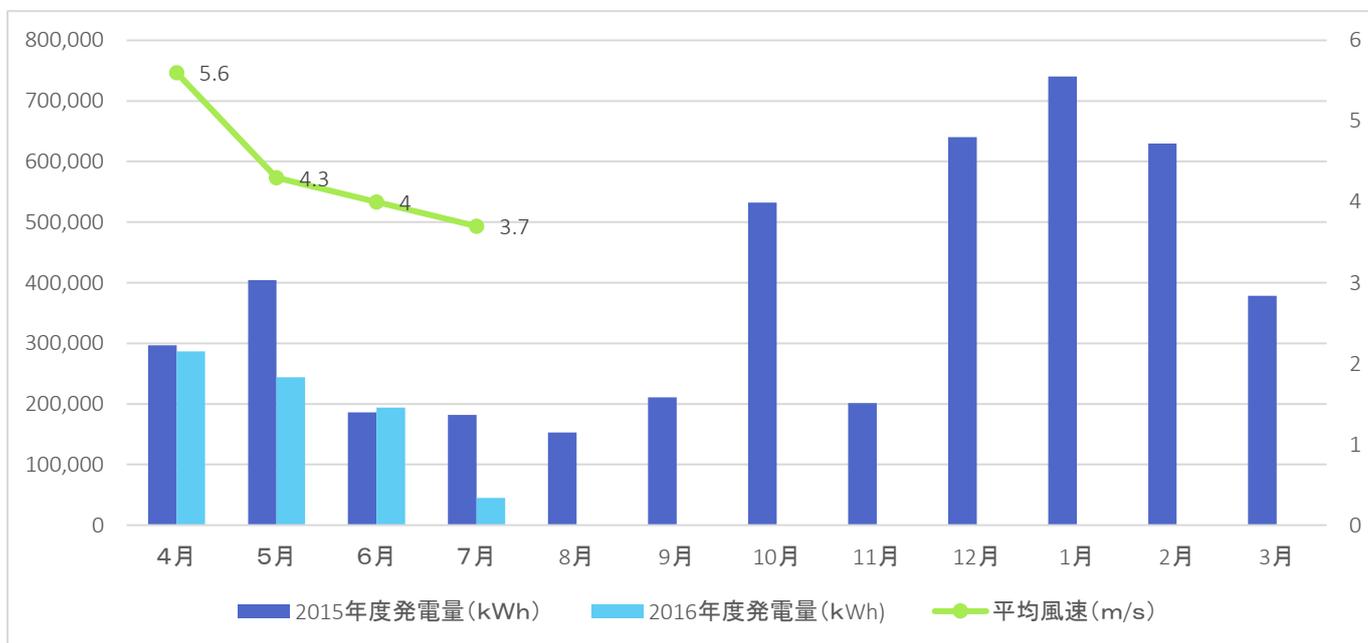


Vol.50

●発行 2016. 8. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田  
●発行責任者 半澤彰浩(代表理事) ●編集責任者 西村明子

## ■2016 年度 発電実績

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	286,904 【96.7%】	5.6	20.0	10月			
5月	243,884 【60.3%】	4.3	16.5	11月			
6月	193,900 【104.3%】	4.0	13.5	12月			
7月	45,130 【24.8%】	3.7	3.1	1月			
8月				2月			
9月				3月			



- 風況は平年並みの実績でした。
- 先月から引き続きDTダンパトルクリミットエラーが頻発し、その調査と修理のために7/9～23日まで停止しました。停止時間が長かったため発電量は前年比24.8%となりました。
- 調査の結果、発電機回転数を検出している機器(発電機エンコーダ)と発電機回転信号を光から電気信号に変換する機器(メディアコンバータ)の故障によるものと分かり、修理しました。
- ブレードについて補修作業を実施しました。

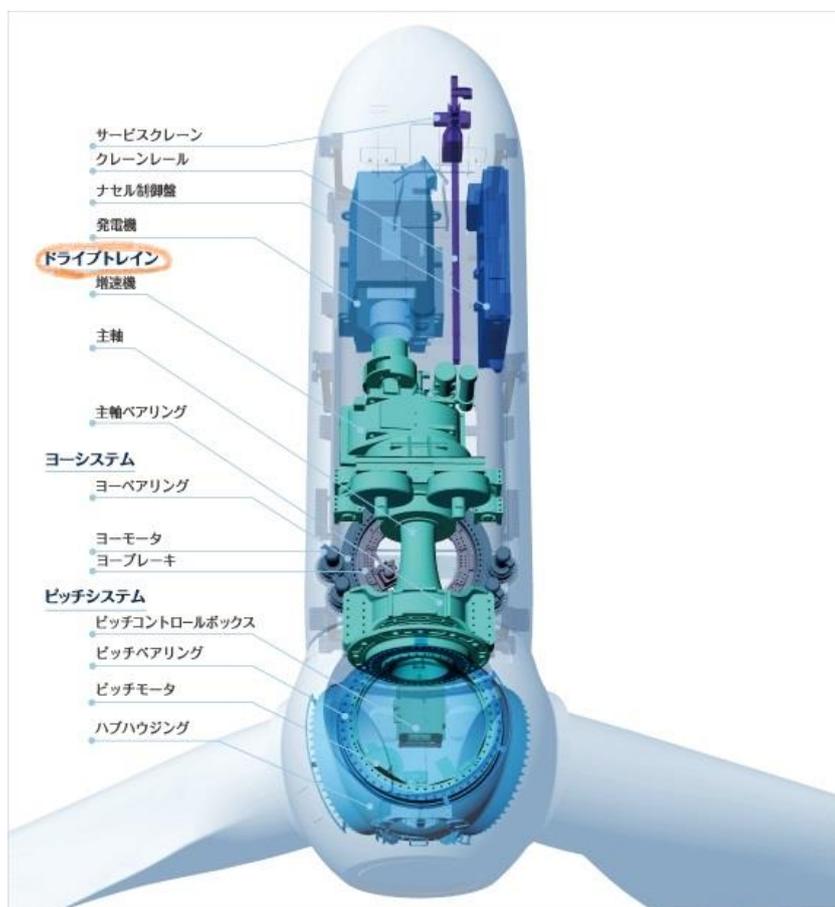
## ■グリーンファンド秋田理事会 報告

8月3日、2016年度第1回理事会を行いました。第1四半期の決算報告を承認しました。売電売上げは計画比81.4%の実績になりました。5月の風況が同時期の過去記録と比べて最も低かったことが要因です。

生活クラブ版映像「未来を変える電気の共同購入～夢風から始まったエネルギーの産地提携～」の制作について有限責任事業組合「いでは堂」との業務委託契約を承認しました。映像で見る活動は30分という間にコンパクトにまとめられていてとても分かりやすく、制作してよかったという声が上がりました。映像はDVDにコピーして、生活クラブ各単協及び関係各所に配布します。このほか、にかほ市との交流企画の進捗と普及啓発費の執行状況、夢風ブランド開発活動と取り組み計画について、東日本復興支援まつりへの参加と協賛金の拠出、象潟花火大会への協賛金の拠出について承認しました。



## ■ ナセルのなかってどうなっているの？



組合員リーダーツアーではナセルに登る体験もしていますが、改めて、ナセルの中がどうなっているのかご紹介します。

ナセルに実際に登った方も狭いところにびっしりと機械が並んでいるので、この図のように俯瞰してみることは難しかったのではないのでしょうか。

ブレード・ローター・主軸・増速機から発電に至る回転の系をドライブトレイン (DT)と言います。これら個々の部品は非常に硬そうに見えますが実はバネのように振動します。この振動を制御する制御出力をドライブトレインダンパーと呼んでいます。

大きくゆったり回っているように見える風

車ですが、とてもデリケートな精密機械の集まりなんですね。

## ■組合員リーダーツアー開催報告 Part 1

東京、神奈川、千葉、埼玉の4単協の新しい組合員リーダーが生活クラブ風車を視察し、にかほ市との地域間連携の取り組みや、生活クラブのエネルギー政策について学習したり、組合員が継続的に訪問し、にかほ市や芹田地区の方、生産者の方と交流したりすることで相互理解を進めるために、毎年この時期に

組合員リーダーツアーを行っています。今年は組合員と、お子さん、他研究者の方などあわせて27名で実施しました。

まずは(株)飛良泉本舗の酒蔵見学です。ここでは斎藤社長自ら組合員を案内してくださいました。組合員からは、「酵母の香りでしょうか、おしょう油のような、おみそのような懐かしい香りがして、こういう場所で『夢風』が作られたのだな…と思いました。」「昔からの伝統を守りながらお酒造りを続けている社長の熱意が伝わってきました。」「木造を維持されるのは大変な事だと思いました。」(青字は組合員アンケートから。以下同)という感想が聞かれました。この冬は「純米大吟醸しぼりたて夢風」の取り組みがデポーで企画されています。すでに酒米「秋田酒こまち」も杜氏の遠田さんの水田で育っているとのこと。完成が待ち遠しいですね！



いよいよ風車夢風の視察です。バスを降りるとみんな一斉に上を向き、風車の大きさにおどろいているようでした。ここでは(株)市民風力発電の高橋誠治さんから風車がどんなふうに発電しているのか説明していただきました。また、田口博伸さんには組合員をナセルに登る時のオペレーションとサポートをしていただきました。



風車にある図を見ながら説明を聞きました。

「実際に風車を見て、内部のシステムや上っていくところ、降りていくところを見られてよかったです。これを自分たちで作ったという事を考えるととても誇らしいです。回っている風車を見ることができなくてとても残念でした。11月~4月の時期にまた来たい気もするが、いろいろな人が参加することが大切だということもよくわかりました。」

「実際に風車を見て、内部のシステムや上っていくところ、降りていくところを見られてよかったです。これを自分たちで作ったという事を考えるととても誇らしいです。回っている風車を見ることができなくてとても残念でした。11月~4月の時期にまた来たい気もするが、いろいろな人が参加することが大切だということもよくわかりました。」

「環境、自然エネルギーという各テーマの情景を目に焼き付けました。」

今年も組合員の代表として、埼玉の三浦麗子さんと神奈川の戸田和子さんがナセルに登りました。写真は戸田さん。「**にかほの素敵な景色と涼しい風がとても気持ちよかったです**」との感想です。ナセルに登るのに、夢風は、タワーの内部はエレベーターなのですが、タワーからナセルに移動するのははしごなどを使います。そこはあくまでも点検用に作られているために上りづらく、とても大変だった、普段の運動不足がたたって筋肉痛になりそうです、と笑顔で話していました。



前日に梅雨が明けたばかりで、組合員リーダーツアーとしては最高の暑さの一日になりましたが、ここから加工用トマトの実験栽培の圃場の視察と、収穫体験に向かいました。圃場に向かう前に、昨年新しく建てられた芹田地区自治会館に立ち寄りしました。建物の中はクーラー

が効いてとても涼しく、みんなほっと一息。荒川会長から説明を受け、屋根には太陽光パネルが設置されていたり、冬は蓄熱暖房で省エネに励まれていたりするお話を聞いて、感心しきり。整った設備に「こんなところが近くにあったら・・・」というため息があちこちからもれていました。



芹田自治会館にて

芹田自治会館を後にして、加工用トマトの圃場に向かいました。



昨年より面積を約3倍に広げた広い畑ではトマトが元気に育っていました。今年は梅雨明けが遅く、この日までに晴れの日が少なかったことから、色づきが心配されましたが、完熟で深紅の色のトマトだけを収穫しないと、おいしいトマトケチャップにならないという説明を受け、宝探しをするように収穫が始まりました。

「完熟を見分けるのが難しかったです。

大切なトマト、と思うと一個一個取っていいのか迷いつつの作業になりました。最後にいただいたトマトの丸かじり、おいしかった！！」「トマトの収穫がとても大変な事、デリケートなものであること、完熟を食べるという事の大変さ貴重さを知りました。カエルが何匹もいてよかったです。」「真っ赤なトマトがなかなか見つけれず、見つけたときは宝物を探し当てたかのような嬉しさがありました。最後に試食させてもらいましたが、甘みが強くおいしかったです。暑くて大変でしたが、いつも作業される方はもっと大変なのだろうと思うと、ケチャップがもっと大切に感じられます。」



113 キロ！と聞いてみんなびっくり。

暑さに耐えながらの1時間弱の作業でしたが、みんなで力を合わせて、113kgのトマトが収穫できました。



「根元に近いほうから赤くなるトマト。長雨で病気になっていたり虫食いもあったり、生食と違う実の硬さだったり、この暑さの中での収穫であること、

手摘みでしか出来ないこと、体験しないとわからないこと、楽しかったです。」「地元との交流が大切。実際にその大変さを少しでも体験することができたのは視察するだけとは違いよかったですと思います。」

芹田営農組合の遠藤組合長はじめ組合員の方々にもご協力いただき、大変ありがとうございました。暑い中、おつかれさまでした！！

リーダーツアー開催報告は次号に続く……